

論文内容の要旨

氏名	上田 淳哉
A randomized controlled trial evaluating the effectiveness of a short video-based educational program for improving mental health literacy among schoolteachers	
(和訳)	
短編映像教材視聴による学校教員のメンタルヘルスリテラシー教育の効果の検討	

論文内容の要旨

精神疾患に対する無知・偏見・差別(これらを合わせてスティグマ)は、適正なメンタルヘルスケアを求め、それを受けることへの障壁になるとされる。Mental health literacy(以下、MHL)教育は精神疾患の予防と早期発見・支援、さらには精神疾患に対するスティグマの軽減に重要な意義があるとされる。高等学校学習指導要領改訂に伴い、2022年から学校教育で精神疾患を扱うこととなった。本研究は生徒へのMHL教育の授業に先立って、学校教員への知識提供を目的とした研修会を開催し、学校教員向けMHL教育が学校教員の知識、スティグマに及ぼす影響についての検討を行った。

対象は本研究に参加同意した4つの学校の教員92名で、性別と年齢で層別化し、無作為に研修会を受講する群(以下、介入群)と対照群の2群に割付けた。介入群には複数研修会開催による介入の均一化を図るため、東京大学大学院教育学研究科が製作したDVD教材を用い、児童思春期におけるうつ病やパニック症、統合失調症などの基礎的な知識と、児童・生徒による援助希求的行動への適切な対応に関する内容を含む50分間の映像視聴を介入とし、その時間対照群の教員は別室待機とした。アウトカムは一般的な精神疾患に関する知識、上記3疾患の特定、うつ病に対するスティグマ、うつ症状を抱えた生徒への態度、将来のスティグマに関連した行動を予測するRIBS-J future domain(Japanese version of the Reported and Intended Behaviour Scale)とし、研修会受講前後で2回のアンケートを実施し、介入前後での群間比較を行った。尚、本研究は奈良県立医科大学・医の倫理審査委員会の承認を得ており、研究計画はUMINへの登録を行った(ID = UMIN 000032311)。

参加者は平均41.6(Mean SD: 13.5)歳の介入群49名と、40.8(Mean SD: 12.5)歳の対照群43名の教員で、介入前の時点で、教員としての勤務年数、それまでの研修会の参加経験の有無、精神疾患を抱えた人物が身近にいたかについて、差はみられなかった。介入前後において、対照群と比較して、精神疾患に関する知識、精神疾患の特定の正答率に向上がみられた。一方で、精神疾患に対するスティグマについて効果はみられなかった。知識向上とスティグマ向上は必ずしも同時に起こるわけではなく、地域住民に対する疾患教育が適正な援助につながるとの報告があり、本研究においても、うつ症状を有する生徒への援助の意思・態度がポジティブとなり、映像視聴による教育が適正な知識提供、及び生徒への適切な援助につながる可能性が示唆された。